

料金別納郵便



唐津 安永頼山 茶陶展

令和8年7月4日(土)~9日(木) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時 (最終日9日は午後5時まで)

作家在廊日：7月4日(土)~6日(月)

陶歴	昭和45年	島根県益田市に生まれる
	平成13年	田中佐次郎氏に師事
	平成15年	藤ノ木土平氏に師事
	平成20年	現在地に登り窯を築窯
	平成25年	田中佐次郎氏命名の「頼山」に改名
	平成28年	京都野村美術館にて茶陶展開催、第63回 日本伝統工芸展 入選
	平成29年	第34回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」入選
		第7回 菊池ビエンナーレ 入選
	令和元年	第25回 日本陶芸展 入選、現在形の陶芸 萩大賞展Ⅴ 佳作
		第8回 菊池ビエンナーレ 入選
	令和3年	「近代工芸と茶の湯のうつわ」展 出品 (国立工芸館/金沢)

安永頼山の《絵唐津茶盃》を見たとき、ふっと利休の朝顔の茶会の逸話を思い出した。朝顔を観る茶会を申し入れた秀吉が利休の屋敷に着くと、庭にあるはずの朝顔の花がすべて摘み取られ、一番美しいと思われる一輪の朝顔が茶室に活けてあったというのだ。利休の美学を伝える逸話だが、この茶盃に描かれた円相は、ほぼ半円で筆の勢いが止まっている。そのため筆跡に力か籠っているのだ。それは端反りの茶盃にも言える。唐津の良さは自由で大らかな造形だが、描き過ぎず造り過ぎないことで、逆に力強さが凝縮している。この茶盃は、古唐津を写した茶盃ではなく、古唐津の本質を表現した茶盃である。そこに安永の美学が感じられる。安永頼山は間違いなく茶陶唐津の明日を担う作家である。森孝一 (美術評論家・日本陶磁協会 常任理事)

柿付ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram



160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com



